

が定着できれば、もっと多くの参加をいただけるのではないかと考えています。引き続き来年も同様の事業を実施していきたいです。

#### 【受講者の声】

- ・あつという間の時間でした。しめ縄の意味や歴史を知ることができて、単に作るだけではない、貴重な時間となりました。
- ・この時期の活動として大変有意義なものなので、自分が指導できるまでになりたい。



報告者：山田啓貴（公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）

#### グロウイング・アップ・ワイルド資格認定（平成26年12月20日実施）

雪などの関係で遠くから遅れて来る方もおられました。10時には開始し遅れて来た方にはそのつど説明させていただきました。



アクティビティを沢山紹介しながら、グロウイング・アップ・ワイルドという昨年日本に導入になったパッケージドプログラムを理解してもらいながら午前中は活動を終え、その後お昼をはさんで参加者の実習のための準備などしていただきました。参加者の実習も他の指導者の手法など学ぶ事も多く、途中手話講座なども入って楽しく活動をする事ができました。

全体的な雰囲気は資格認定の講習会とは違って、各指導者の面識があったり、楽しい雰囲気にも非会員の方も会員になりたいとお話もいただいたり、休憩やゆとりのある時間でキャンプ協会の話や指導者交流があつてすごく

楽しい活動となりました。

#### 【受講者の声】

- ・指導の仕方や実際に自分で指導して見た事。何を伝えて行けばなど勉強になりました。また、講師の方が手話を使って講習していたことも良かったです。
- ・たくさんのアクティビティを知り、進行の仕方また手話を取り入れた進行だったためとても新鮮で発見が多くあった。

報告者：二杉寿志（おたる自然の家）

## 《べんり アイテム紹介》

このコーナーは指導者の皆様が愛用している便利なアイテムや教材を紹介します。

#### NO.002【ガイアフィールドライン】

身近でありながら捨てるだけの存在だった「卵の殻」が安全で安心なグラウンド用ラインに変身！従来のグラウンド用ラインは消石灰を使用しており、低温火傷や目の損傷を引き起こす恐れがあるとされています。ガイアフィールドラインは卵の殻 100%の粉！ライン引きの他にも、雪の上に粉を振り雪上絵を作ったり、雪に粉を混ぜて色雪あそびもできたりする優れもの！お庭で遊べば、酸化していた土も中性になり土壌改良ができるのです！（カラーは赤、黄、青、緑、白があります。）



投稿者：(ニックネーム)：ニャンちゅう

#### 北海道キャンプ協会

〒047-0155 小樽市望洋台 2-14-1 望洋ビル(特)自然教育促進会内 担当：安原、岩崎  
お問合わせ TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667  
E-mail: office@hokkaidocamp.com  
URL: <http://www.hokkaidocamp.com/index>



# 北海道キャンプ協会 かわら版

2015. 4. 1

北海道キャンプ協会 発行

## 「雑感」

北海道キャンプ協会は、一昨年20周年を終えようやく成人になったところです。これからどこに向かうのかが問われています。昨年より活動のあり方を協議し改めて専門部会を整備し若いメンバーの協力を得て各種活動を推し進めているところです。北海道キャンプ協会を設立した当初は全国的にテントを使用した宿泊を伴う団体のキャンプが一般的でした。当会ではそのような状況の中で、指導者の重要さと必要性を痛感して集団活動を指導できる人材を増やすことに重点を置き進めてきました。が、時代とともに子供たちの環境や世の中全体が色々と変化してきたように思います。そこで今一度と基本に戻って考えてみたいものです。

### キャンプって何？

プロ野球の日本ハムファイターズやサッカーのコンサドーレはシーズン前にキャンプをします。そして、戦後ずっとある米軍キャンプ等々。これらは「キャンプ」そのものが目的でないことは明らかです。では、なぜ当会は目的でない「キャンプ」を普及させようとしているのでしょうか。キャンプを実施する時はどんな団体・グループも必ず目的を掲げます。例えば「自然の理解」・「自然と親しむ心を育てる」・「共調性の涵養」・「共同の楽しさ」、等々。これらの目的を達成させるためにキャンプを行うのです。それではこれら目的の達成はキャンプ以外ではできないのでしょうか。決してそんな事はありません。でもなぜ「キャンプ」なのでしょう。

日本の中で団体キャンプ（主にスクールキャンプ）が大きく発展したきっかけは三重県の四日市喘息（公害問題）であると言われています。（もちろん以前からYMCA やボーイスカウト等の団体でキャンプは行われていた）それは子どもの健康のため夏休みに公害のある地域から離れ林間学校（疎開）を始め、その効果（健康面を含めた人間関係の成長）が徐々に全国に広まっていったのです。学校単位のスクールキャンプは特に高度経済成長にささえられ広がりを見張るものがありました。私たちは各団体が持つ色々な目的を達成させることができる、最良の方法の一つであると確信し当会の活動を進めてきました。また、キャンプの形は色々と変化しても基本は変わらぬものと思っています。

私が経験した、小学校低学年を対象にした時のことです。そのキャンプに参加した小学校1年生の男の子は、自分のリーダーに言われたことは「神の声」をきくがごとく何事も真剣に一生懸命に働きます。夕食の時、ついにエネルギーゼロとなり自分のご飯茶碗に顔を伏せたまま寝てしまいました。「何とかかわいい」と思うと同時に、この子にとって今日の活動は正しかったのだろうかとか重い責任を感じたことを覚えています。

人は集団の中で育つと言われていました。人は1人では社会とは言いません。人と人の関係があつて初めて社会になるのです。その社会の中で人として生きるのは大変なことです。子どもの時から集団の中での経験が必要不可欠なのです。キャンプは日常と違う環境の中で素直に心からぶつかり合うことから生まれる果実を、たっぷり自分の中に取り込める最高の場になり得るのです。子どもにとって新しい経験は本当に大きな成長の糧になります。大人になった私たちには日々新しい体験にぶつかることはめったにありません。小さな子どもにとっては毎日が新しい体験の連続なのです。まさに人生を生きていくための血となり肉となるのです。キャンプはまさに人を創る凝縮された場面に立ち合っているのです。ただそこには、本当のリーダー（ワーカー）がいなければ鳥合の衆になりかねません。私たちはその意味において良いワーカーを育てなければならないと思っています。

指導者と言われる立場にいる私たちは

- ・メンバーに真摯に向き合っているでしょうか。
- ・指導者の都合で物事を決めていないでしょうか。
- ・メンバー1人1人を愛しているでしょうか。
- ・……

文責：相馬宏哉（北海道キャンプ協会副会長）

# 指導者養成担当より

## 「キャンプインストラクター養成講習会と

### 講習会運営ボランティア募集のお知らせ」

北海道キャンプ協会主催で「キャンプインストラクター養成講習会」を行います。さまざまな角度でキャンプの基本を体験し、指導者としてのスキルを学ぶこの講習会は、日本キャンプ協会が定めるキャンプインストラクター養成講習会の資格を習得することができます。詳しい内容は、今後掲載予定の北海道キャンプ協会ホームページをご覧ください。お近くに興味関心のある方がいましたら、お声かけのご協力をお願いします。

また、講習会運営ボランティアも募集しています。自らのブラッシュアップや資格のステップアップを考えておられる有資格者で興味のある方は、北海道キャンプ協会事務局までご連絡ください。

#### <キャンプインストラクター養成講習会>

日 程：平成27年5月15日（金）～17日（日）の2泊3日

場 所：札幌市滝野自然学園（札幌市南区滝野106番地）

内 容：キャンプの特性、キャンプの生活技術、キャンプの安全など講義と実技

参加費：14,500円（税込、宿泊費、食費、講習会費、テキスト代、その他）

※終了後、キャンプインストラクターに登録するためには、別途15,000円が必要です。

申 込・お問い合わせ先：

北海道キャンプ協会事務局

〒047-0155 小樽市望洋台2-14-1 望洋ヴィレッジ（特）自然教育促進会内

E-mail：office@hokkaidocamp.com

TEL：0134(52)3240 Fax：0134(51)5667

# 啓発活動・会員交流担当より

## 「あそびのバイキング 実施報告」（平成26年11月30日実施）

■バルーンアート 担当：NPO法人こども共育サポートセンター

・体験者延数 98名（内半数の参加者が2つ～3つ作っています。）

・体験の様子

バルーンアート（こども共育サポートセンターコーナー）では4つ足の哺乳類をテーマに犬・ウサギ・キリン・キツネ・リスの中から好きな動物を作成しました。ピエロに変装したスタッフが参加者に作り方を教える体験コーナーです。

室内が乾燥していたため、作成後割れてしまうバルーンもありましたが、作り方を覚えていたので、2回目からは教えることなく子どもの力で作ることが出来、喜んで持ち帰っておりました。

動物を題材にしたことで、動物足や耳、尾などの身体の特徴に触れる機会にもなりました。



■マイ箸作り 担当：青少年山の家

・体験者数 41名

・体験の様子

午前10時の開始と同時に子ども団体が訪れ、あっという間に山の家ブースは満員状態となりました。マイ箸作りは長時間作業するため、一度手を付けると他ブースへの足止めになってしまうと感じました。午後は参加人数も落ち着き、徐々に子ども団体から親子での参加へと推移していきました。

参加者からは「大変だったけど楽しかった」、出来上がった箸を見て「絶対に使う」という声が上がりましたが、提供素材の見直しや小刀の導入等、出展者としての検討事項も見つかり今後の課題と捉えて向き合いたいと思いました。



■ダッチオープンでポップコーン&いも餅作り 担当：滝野自然学園

・体験者数 69名（ポップコーン48人、いも餅21人）

・体験の様子

ポップコーンは都度ごとに体験いただき、合間無く実施できました。気軽に立ち寄っていただき、ダッチオープンに材料を入れ、ポップコーンを作るという過程を楽しんでいただきました。実際に作る過程を知らない子どもも多く、喜んでいました。

いも餅作りは、午前午後各1回の実施でしたが、型抜をして星型やハート型など成形も楽しんでいただきました。焼いて試食し美味しくいただきました。

今後は、各食材が畑でできるまでを学ぶなど、より学びを深められる仕掛けを考えていきたいと思っています。



■木のコマ 担当：ちびっ子大将クラブ

・体験者数 63名

・体験の様子

自然のままの状態の木に触れてもらうために、そのまま輪切りにした木を利用したコマ作り、どれがよく回るかなどを考えながらたくさん触れてもらうことができました。心棒をヤスリで削ってもらって選んでもらった木に入れて完成するのですが、選んだ木によっての回り方が違うことを知って微調整をしていただきます。その後は色を塗ったりして楽しんでいただきました。

■石臼できな粉 担当：ちびっ子大将クラブ

・体験者数 54名

・体験の様子

きな粉はなにで作られているのか知らない子や石臼に始めて触れる子もいて楽しみながらきな粉を作っていました。残りご飯をつぶしてつけて食べてもらいましたが、2工程もあるのでもっと簡単にもちなどを用意して焼いてもらってもいいのかな？とも話しておりました。

報告者：二杉寿志、山田啓貴、長江集子

## 「BUC事業報告」

しめ縄作り体験（平成26年12月20日実施）

講師から北海道のしめ縄の歴史や、そもそもしめ縄は何のために飾るのかなどのお話をいただき、講習がスタートしました。縄ないから始め、最初は苦戦している様子でしたが、講師の段階を追った進行に、最後には立派なしめ飾りが完成していました。少人数故に、顔の見える活動となり、コミュニケーションを図ることができました。昨年度に引き続き2年目のしめ縄作りであるので、この時期にBUCでしめ縄を作るということ